

【小学部の教育】

1 教育目標

将来に向け、「やり方がわかる」「自分で考え選ぶ」「やってみる」という経験の積み重ねを大切にしながら、身近な生活の中で安心感と興味をもって主体的に動く児童を育てる。

(1) 人と触れ合い、関わり合う力を育てる（人間関係をつくる力）

多様な人々との対話や協働をとおして、心が動く経験を積み、他者と共に過ごす心地よさや安心感を育む。

(2) 感情を豊かに表し、思いを伝え合う力を育てる（コミュニケーション力）

自分の「好き」や「やりたい」を、自分なりの方法で「つたえあう」楽しさを実感し、互いに認め合える関係を築く。

(3) 「わかる」「できる」を増やし、生活に生かす力を育てる（社会環境への適応力）

学習や生活の「やり方がわかる」安心感を基盤に、基礎的なスキルを習得し、学校や地域の中で自信をもって活用する力を育てる。

(4) 自ら考え、挑戦しようとする意欲を育てる（はたらく力・主体性）

身近な課題に対して「まずはやってみる」姿勢を大切に、役割を果たす喜びや、自分自身の変容（成長）を実感できる意欲を育てる。

(5) 自分の好きな活動を見付け、自ら選ぶ力を育てる（選択・決定する力）・

多くの選択肢の中から、自分で「えらぶ」経験を積み重ね、納得して意欲的に取り組む姿勢を育てる。

2 教育方針

令和8年度の学校経営方針に基づき、小学部では以下の5つの観点を教育活動の柱とする。

(1) 全般

「命を大切にすること」「人権を守ること」を教育活動の柱とし、児童一人一人の発達段階や特性を的確に把握するとともに、12年間を見通し、育てたい「5つの力」を軸とした連続性のあ
る指導を確立し、学校ビジョンの具現化とウェルビーイングを実感できる教育活動を推進する。

(2) 学習指導

個別の教育支援計画等に基づき、ICT機器を最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学
び」を一体的に推進する。全校で「学びの履歴シート」を活用し、12カ年の連続性を見据えた自
立活動や道徳教育の充実に努め、児童一人一人の「わかる・できる・えらぶ・つたえあう」を支
える授業を構築する。

(3) 生徒指導・進路指導

「どうすればできるか（やり方がわかる）」という視点に立ち、視覚的支援や環境調整を行い、
児童が「選ぶ・やってみる」という意欲を持てるような肯定的介入と発達支持的指導に努める。ま
た、不登校傾向や不安や苦痛を表す行動（パニックや自傷等）を単なる問題行動と捉えず、背景に
ある思いを多角的に分析し、担任・学部をはじめ関係機関と連携を図り、指導に努める。

(4) 安心・安全

「命を大切にすること」「自分の命は自分で守る」価値基準のもと、生活に即した「生きる力」を身
に付けるため、食育を含む健康安全教育を推進する。児童の特性に応じた視覚支援やICTを活用し
、「やり方がわかる」実践的な防災訓練を積み重ね、安全な教育環境の構築に努める。

(5) 家庭や地域との連携

小学部という発達段階を考慮し、近隣の公園、店舗、公共施設など「生きた教材」を授業に取り
入れ、地域資源を積極的に活用した社会とつながる学習を推進するとともに、地域の一員とし
て社会とつながる教育活動を充実させる。